

# 輝き

三木市立三木特別支援学校 学校通信 No.3 令和6年6月3日

## その子なりの方法で

### その子なりのタイミングで

校外学習に行った時のことです。プラネタリウムを観ることになっていましたが、3人が入りたがりません。理由は暗い所や初めての場所が怖いためです。プラネタリウムの入口付近で、子どもと担任とがやり取りをしています。「扉の近くまで行ってみよう」とか、「一度だけは行ってみよう」と担任が提案すると、ちょっとやってみよう子どもが動きます。それでもやっぱり怖くて後ずさりをします。そんなやり取りを何回か繰り返していました。その後は、別の場所で楽しく過ごしていました。

本校は全校生で33人と小さな学校ですが、元気な子が多く、少し教室が騒がしくなることがあります。その騒がしさが苦手で、学校に行くのをためらっている子がいました。本人、保護者、担任、学部主任とでいろいろと考えて、しばらくは別室で過ごす時間をつくることにしました。はじめは慣れない教室でしたが、少しずつ慣れてきてちょっと安心して過ごせるようになってきました。そうすると、「次の時間の学習に行ってみる？」と担任が誘うと、「行ってみる」と言います。また「この時間は行かないけど、次の時間は行く」と自分で計画を立てることもあります。

食事そのものが苦手で、特に白米がほとんど食べられない子がいます。ある日ご家庭から、「ふりかけを使ったら食べるので、持たせてもいいですか」という問い合わせがありました。担任と話し合い、持ってきてもらうことにしました。その子がきっかけ

になって、今では3人の子がふりかけを使って食べています。ふりかけをかけるご飯と、そうでないご飯を分けて、日々やり取りをしています。

これらは本校の日常の一コマです。なんていい加減なことをしているのかと思われる方もおられるかもしれませんが、こんなことこそが大切だと信じ、日々悩みながら私たちは子どもたちと過ごしています。

特別支援教育は「答えのない教育」とか、「教科書のない教育」と言われます。子どもたちと接し、教員と話をしながら思うのは、教科書も答えも目には見えないけれど、それらはすべて子どもたちの中にあると思います。これからも悩みながら、日々を綴っていきます。

## 小野特支の石碑から

昨年度にご紹介しました小野特別支援学校の石碑の詩を改めて紹介します。

小さきは 小さきままに  
折れたるは 折れたるままに  
花ひらく コスモスの花

小野特別支援学校の初代校長 美崎明先生のお言葉です。約40前のことで、かなり間違っていて記憶していたことを恥ずかしく思い訂正させていただきます。細かな言葉は違いますが、やはり私を支えてくれている言葉であることは、違いありません。

三木市立三木特別支援学校  
校長 橋本 泰一